

## リアルタイム線量測定システムの配置の見直しに関する住民説明会（二本松市）

### 議事録

日時：平成30年11月8日（木）19：00～

場所：岳下住民センター 研修展示室

#### 議事

○南山総括調整官 皆様、おばんでございます。

定刻となりましたので、リアルタイム線量測定システムの配置の見直しに関します二本松市での住民説明会を始めさせていただきます。

会場の皆様には、お忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また、二本松市役所の皆様にも大変お世話になっておりまして、ありがとうございます。

原子力規制庁の説明者を紹介させていただきます。

東京の本庁から、武山監視情報課長、滝田補佐、それから、後ろになりますが伊藤でございます。それから、今日は大阪の規制事務所のほうから、前、福島のパラメータリング担当をしておりました高岡専門官でございます。それから、福島のパラメータリング本部から防災担当の鈴木専門官でございます。私、司会進行を務めます福島総括の南山でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

座らせていただきます。

まず、本日の説明会の進行につきまして若干御案内いたします。初めに、原子力規制庁の武山課長のほうから、お手元の資料と正面のプロジェクターを用いまして説明をさせていただきます。その後に、会場の皆様から御質問、御意見等を頂戴したいと思っております。御発言についてですが、お手を挙げていただきまして、係りの者がマイクをお渡しいたしますので、座ったままお話をお願いいたします。

本日、終了時刻につきましては、会場の都合もございまして、20時45分までとさせていただきます。限られた時間でありますので、その中でも、なるべく多くの方に発言をいただきたいと思っております。モニタリングに関する御意見、御質問、簡潔にお願いいたします。また、回答側も簡潔でわかりやすくお願いしたいと思っております。

この会場の模様は原子力規制庁のほうでカメラに撮ってございまして、後日、原子力規制委員会ホームページのほうで公開させていただきますので、あらかじめ御了承いただき

たいと思います。よろしゅうございますでしょうか。

では、武山課長、説明をお願いします。

○武山監視情報課長 二本松市の皆様、こんばんは。私、原子力規制庁監視情報課長の武山と申します。

まず、説明に入る前に、原子力規制委員会、原子力規制庁の紹介をさせていただければと思います。

平成23年3月11日の福島第一原子力発電所の事故ですね、この事故の教訓を受けて、それまでの原子力の規制組織を解体して、新たに平成24年9月に発足をして、原子力の新しい規制組織として発足したものでございます。5人の有識者からなる委員から構成されまして、その事務局として原子力規制庁というのがおります。仕事としましては、原子力発電所などの規制を行うということでございまして、あと、緊急事態のときに避難などの技術的な判断をするというところでございます。また、我々監視情報課という課は、こちら、北は北海道から南は沖縄までモニタリングポストがございまして。モニタリングポストによる放射線の監視、測定の業務というのをやっているところでございます。

簡単ですけども以上でございまして、それでは、説明をさせていただければと思いますけれども、お手元の資料、まず3ページに「はじめに」というのがございますけれども、今回の、今日の説明会の趣旨でございまして、まず、我々は事故直後から、まずモニタリングポストを多く設置して、放射線量というのを継続的に測定してきたわけですが、現在、その放射線の状況が変わってきていると、だんだん低くなってきているという状況でございます。

また、そういう状況もあり、また、行政上の課題として、モニタリングポストの耐用年数、あるいは予算、こういったものもございまして。こういったことで、状況が変わっている状況を考えると、我々のほうとしても、モニタリングポストの配置をこのままでいいかどうかということについて見直す時期に来ているのではないかというふうに考えているところでございます。今日は一つの御提案をさせていただいて、それに対して皆様の御意見をお聞かせいただくということでございます。

次のページをお開きいただければと思います。4ページですね、放射線監視体制ということでございますけれども、赤いポツがついているもの、これがリアルタイム線量測定システムという名前のモニタリングポストでございまして。これが2,974台ぐらいありますけれども、これは学校、幼稚園、保育園、こういったところに設置をしているものでござい

す。また、緑の丸が、可搬型ポストというのが576台ございますけれども、こちらは、大体5km、10km、というメッシュで、全県的に置いているものでございますけれども、中長期的に放射線の状況を把握するということで置いているというものでございまして、可搬型と申しますけれども、元来は持ち運んで設置を、好きなどころに設置をするというものでございますけれども、こちら、後で御紹介しますけれども、固定して設置をしているものでございます。また、青い四角で水準ポスト12台ございますけれども、こちらは、日本全国に水準ポストというのが実はございまして、いわゆる全国の各都道府県のレベルを比較するということでございまして、それが今、福島内では12台ついているというものでございます。また、監視ポストというのが三角でございまして、こちらは、福島第一・第二原発ですね、主に30km圏ですけれども、そちらについているもので、原発で異常があったときに、これでもっていち早く検知をして、防護措置などに使うというものでございます。

次のページをお開きいただければと思います。5ページです。二本松市にあるモニタリングポストということで、まず、リアルタイム線量測定システム、学校などに置いているものでございますけれども、こちらが今97台ございます。また、右側にあります可搬型モニタリングポストですね、こちら、両方で合わせて17台ございます。このような形のものでございまして、両方とも、太陽電池とバッテリーで動くということでございまして、表示も赤い表示板がついているというものがございます。この表示については、朝の7時から夜の19時まで電光表示でもってついているというものでございます。

それから、ちょっと単位がシーベルト、グレイということで、少し書いていることが違うんですけれども、大体、基本的に同じぐらいの数字だと考えていただいて結構です。もともとグレイのほうは、これは空気吸収線量ということで、空気に吸収されるエネルギーというのを測定しているわけでございますけれども、その単位でございまして、それを、人体への影響を勘案して換算をしているものが左側のシーベルトという数字になります。

それから、次のページをお開きいただければと思いますけれども、水準ポストでございます。これが6ページでございますけれども、これ、こちらのほうの二本松市には1台ございます。こちら低線量のものをはかるということで、ついているものでございます。

それから、次のページですね、7ページをお開きいただければと思います。放射線量の状況ということでございます。二本松市のリアルタイム線量測定システム、99台の平均線量率の推移ということでございまして、先ほどから97台と申しましたけれども、今年の3

月時点では99台ございまして、そのうち2台は、実は仮設住宅を撤去する工事ということがあって、その工事の支障になるということで、今、2台は外している状態ということでございます。この99台の推移を見ていただきますと、まず、青い帯がございまして、青い帯、これが47都道府県の水準ポストの、事故以前の17年間の測定値の1日の平均値の範囲を示しております。この一番高いところだと、山口県の0.115というのがレベルになりますし、一番低いところだと青森県の0.010というのがレベルとしてあります。この動きを表しているのが、その範囲を表しているのが、この帯でございまして。

二本松市の場合、だんだんこのように緑の、この緑のやつは、あの99台の全ての値を、月々のものを足して平均したものなんですけれども、徐々に減ってきていて、今の全国の水準のレベルになってきているということが読み取れると思います。

それから8ページ、次のページをお開きいただければと思いますけれども、今度は、そのリアルタイム線量測定システムの1台1台が、どのような線量の範囲に入っているかということで、これは昨年の4月から今年の3月の平均値でございましてけれども、その分布を表したものでございまして。この絵の見方は、例えば、一番左側でありますと0.07～0.08の間に3台のリアルタイム線量測定システムがあると、こういう見方になります。したがって、一番数が多いございましてのは18台ですけれども、これが0.10～0.11の間に入っているということでございまして。一番高い0.22～0.23の間に入っているものが2台ということでございまして。このような分布になっているということでございまして。

それから、次のページですね、9ページをお開きいただければと思います。福島第一原発の現状ということでございまして。福島第一原発、現在、廃炉作業でいろいろと状況も変わっているところがございますけれども、こちらは遠くに放射線が飛んでくるということを考えて、ガス状とか気体状のものが考えられるということで、それ、現状としてどうなっているかということでございまして。一つは、原子炉建屋から放出されているガス状の放射性物質ですね、これによる被ばく線量が、原発の敷地境界で年間0.0005mSv、1万分の5mSv、 $\mu$ Svに直しますと0.5 $\mu$ Sv、このぐらいのレベルになってきているということでございまして。

また、がれき撤去作業が行われておりますけれども、これ、原発の敷地の境界で大気中の放射性物質の濃度が法令基準以下となっているということでございまして、法令基準というのは、セシウム134でいいますと、1 $m^3$ 当たり20Bqというレベルになりまして、こちら、これをこういう、これを1年間呼吸して吸った場合に1mSvというのが被ばく線量になると

ということで、そのレベルを基準としております。

それから、次のページですね、除去土壌ということで、その安全管理ということで、まだ二本松市内は除去土壌が保管されている仮置場が200カ所以上ございます。また、現場保管をされていると聞いていまして、これは300カ所以上ありますということでございます。仮置場ですね、仮置場については、サーベイメーターで毎月2回ほど測定をされている、これは二本松市のほうで測定をしているというふうに聞いているところでございます。

それから、次のページをお開きいただくと、除去土壌などの安全管理ということで、今度は運搬でございますけれども、いわゆる輸送にかかるモニタリングということで、これについては、環境省の中間貯蔵の情報サイトとか、そういったところで公開をしているところでございまして、仮置場から積込場までの輸送、それから積込場に持って行って、そこで、積込場で、サーベイメーターで毎月2回ほど放射線量を測定しているということでございます。また、中間貯蔵施設に持っていくまでの輸送経路については、輸送車が集中する箇所を測定を実施している、環境省のほうで測定を実施しているというところでございます。

搬出のめどなんですけれども、二本松市のほうから伺った情報によりますと、仮置場から全部の搬出がされる見込みは平成33年度というふうに聞いています。また、現場保管で学校にあるわけなんですけれども、それについては、もう既に搬出はされているというふうに聞いているところでございます。また、学校以外の現場保管されているところについては、これは平成33年度に適宜搬出をするという見込みだというふうにお聞きしているところでございます。

それから、次のページ、12ページ、見直しについてということでございまして、今言ったような状況ですね、こういったような状況がございまして、御説明したとおり線量が低く安定しているということをまず考えまして、我々としては、モニタリングポストのうち、可搬型モニタリングポストと水準ポストと監視ポストですね、こちらを維持していきたいと思っております。リアルタイム線量測定システムについては、低いところから順番に撤去をして、使えるものは高いところに置いていくということで考えたいと思っております。その線量の目安としては0.23、それを目安にして考えたいというふうなことでございます。

それから、次のページですけれども、13ページでございますけれども、こちら、身近な線量をはかるための方法ということでございまして、リアルタイム線量測定システムなど

のモニタリングポストについては、地面に固定されて置いてありますので、どうしても、その線量を測るところというのは限られてしまいますので、ないところ、そういうところについては、このようなハンディーなものがございます。こういうハンディーなものを使って測定をするということも必要なかなというふうに考えているところでございます。

こちら、今、二本松市さんのほうに62台ほど国のほうで貸し出しをしております。貸与しております、市民の方がこれをお借りするということができるというふうに聞いていますので、こういったものを活用するということも必要なかなと思っているところでございます。今回このように、一応、先ほどの見直し案とかと、こういったハンディーも使うということも合わせて御説明をさせていただきましたけれども、それに対しての御意見を今日はお聞きをしたいと思っているところでございます。

次のページ、14ページでございますけれども、今日は、やはり8時45分までということまで時間が限られてしまいますので、放射線に関するお問い合わせ窓口というのを設けさせていただいております。こちらの電話番号、フリーダイヤルでございますけれども、受付時間は、このような時間に受け付けをしているところでございますので、ぜひ御活用いただければと思います。

私からの説明は以上でございます。

○南山総括調整官 それでは、皆様方からの御意見、御質問を頂戴したいと思います。

意見のある方、では、一番前の男性のネクタイの方。

○参加者 失礼します。郭内のスズキと言います。

数点質問と、私、今、今日、文部科学省と復興庁のほうに、教職員関係の組合の申し入れというか、要望行動に参加をしてきたんですけれども、そこでも、私は、リアルタイム線量計については維持すべきだというふうな話をさせてもらったんです。

まず、質問ですけれども、学校にある線量計を、今の説明だと、ほぼ、0.23ですから、この表を見ると、ほぼなくするということのようにですが、そう受け取ってよろしいでしょうかということですね。

もう一つは、私は閾値、ここからは安全だとかいうことは、なかなか難しい問題だというふうに思っています。そういう意味では、先ほど、安定していると言いましたけれども、雨風があれば、土手とか山は除染をしていませんので、いろいろあるんですよ。だから、私は見えることが一つの、一人一人のいろんな違いはあっても、一つの判断というか、まあ、しょうがないかなということも含めて、あるんだろうというふうに思っているんです。

ね。

安定しているとか、低くなっているというふうな捉え方ですけれども、私は、原発前と比較をしたら、どういうことなんでしょうかと。長野のある友人が、鈴木君のところは一点、今日もここの前を見ると0.156ですけれども、例えば、長野のある人は、君のところは僕のところの4倍ぐらいあるよというふうに言われるんですね。そういうことを考えると、低いというふうに一方的に言えるのか、安定していると言えるのかというのがちょっと疑問なんです。その根拠を教えてください、安定していると。廃炉作業もまだ終わってないのに安定しているというのはいかななものかなというふうに思っているので、今の説明、ちょっとそういう意味ではその根拠ですね、撤去するという意味での根拠ですよ、それをちょっと教えていただければと思います。

最後に、私の意見ですけれども、先ほど言いましたように、見えるようにしてほしいということ、申し訳ないですけれども、このモニタリングポストは、私たちが国策として進めてきた、その原子力発電、その事故によって、やむなく設置をしたものですので、だから私たちが、どうぞ、もういいですから撤去してくださいと言うことが本当は先なのか。国や、そういうところから、撤去させてください、維持費がかかります、耐用年数がどうのこうのというよりも、何かそのこと、まさに、もう逆立ちしているんじゃないかと。

ちなみに、最後の質問ですけれども、メンテナンス料金って幾らですかというのを最後に質問したいと思います。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

質問は3点ございました。モニタリングポストをゼロにする。ほぼ全てなくすのか。それから、安定、低くなっているという、その根拠は何か。それから、3点目が、その維持費、メンテナンスの維持費にどのくらいか、この3点かと思います。随時お答えいただきたいと思います。

○武山監視情報課長 まず、学校のを、ほぼ全てなくすのかということについては、この提案についてはそのとおりでございまして、0.23というものを基準にするとそうなるということでございます。

それから、低く安定しているということでございますけれども、こちら、この先ほどのグラフですね、7ページにある、いわゆる全国の水準というのが、この青い帯になりますけれども、こちらに入っているということでございます、ということでございます。こ

ちらでもって安定しているというふうに考えているところでございます。

それから、メンテナンス費用ですけれども、こちらメンテナンス費用は、全体として、このリアルタイム線量測定システムについては6億円ほど年間かかるということでございます。というふうなあれでございます。

○南山総括調整官 では、ほかに御質問、御意見を。

じゃあ、前のこちら、マイクがまいります。

○参加者 説明ありがとうございました。質問します。

全体的なお話として、まだ緊急事態宣言というのは、まだ発令されたままですよ。廃炉の見通しも立ってないと。しかも、その年間20mSvの被ばくを許容されているというのが、今、一番目の現状ですよ。それで今、0.24 $\mu$ Sv、これを基準にしているということですが、これは原発事故前の何倍ですか。安定というんじゃないで、これは高いレベルでの安定ですよ。しかも、これはね、平均で出すべきじゃないでしょう。これは最大とかね、そのばらっと見なきゃならないです。それは、このグラフの中で零点、何か書いてありましたけれども、その後ね、そうそう。最大で0.23ですか、これは武山さん、これは原発事故以前の空間線量、二本松の平均の何倍ですか。御存知ですか。何倍になっていますか。

○武山監視情報課長 事故前ですね、福島県のほうで測定をした二本松は大体0.036というレベルだったと思いますけれども、そのレベルになります。したがって、それに対して0.23ですから。

○参加者 何倍ですか。

○武山監視情報課長 何倍ですかね、6倍とか。

○参加者 6倍、そんなものでしょう。これは、あくまでもね、除染した場所ですよ。ちょっと外れて見てくださいよ。何倍になりますか。10倍、20倍なんてざらにあるんですよ。そういうことをね、あなた方の言っていることは、0.23という根拠は、これはそのガラスバッジとか何かつけて、いわゆる、その家の中に入ったとか、生活、大体8時間は外、16時間が屋内ということで0.23ということ、それ1mSvということだと思いますけれどもね。

だって、それは、まさに平均的な行動パターンであってはね、外で働く人もいっぱいいるわけですよ。だから、0.23という数字そのものの欺まんとかね、だって安定していると言っていますけど、それは高いレベルで安定しているじゃないですか。そう思いませんか。だから言っていることがね、あなた方の言っていることはめちゃくちゃですよ、本



当に。緊急事態宣言を、じゃあ、まずはそれを取っ払ってくださいよ。それからじゃないですか。

それから、廃炉のめども全く立ってないじゃないですか。規制庁さん、それは廃炉のめども立っているんですか。それを教えてくださいよ。……デブリはどうするんですか。どこに持っていくんですか、それは。そういうことが全く説明がないままで、何ですか、たったその6億円でしたかね。これからね、何十兆円かかるんですか、廃炉に。60兆円、70兆円かかるんですよ。そのうちのたった6億円というのは何%ですか。10万分の1以下ですよ。10万分の1ですよ。あなた方が、こういう事故を起こしたわけですよ。あなた方が責任とらなきゃならないわけですよ。全然責任とってないじゃないですか。

いわゆる2020年の東京オリンピックがあるからといって、そういうものは取っ払うということがあなた方のその最初の発端というか、目的だったと思うんですが、今回の説明の中に、ほとんど撤去するという理由がほとんど説明されてないんですよ。安定しているから。それ、理由になりますか。全然説明してないじゃないですか、撤去のための理由。こんないい加減な規制庁でいいんですか。あなた方、ここで生活してみてくださいよ。本当に説明になってないな。

もう一つはね、ちょっと長くなって申し訳ないですが、もう何回もこういう説明会をやっているじゃないですか。ほとんどのところで出たものは、私も全部知らないけれども、ほとんど反対ですよ。それから、各市町村でも反対しているわけ。それから、議会でもみんな反対しているわけですよ。それにもかかわらず、あなた方は、いまだにこうやって説明会やっているんですか。説明会なんてやめてください、もう、結論は出ているんだから。それはね、各市町村でどれぐらいですかね、一つや二つぐらいの市町村で撤去賛成というところもあるかもしれませんが。それはほんの一部ですよ。それは会津町とか何かじゃないですか。そこは撤去、外せばいいじゃないですか。それ以外のところは現状維持ですよ。もう結論出ているんですよ。これ以上議論する必要はないんですよ。

以上です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

何かコメントはありますか。特になければ、ほかの御意見等もいただければと思います。

○参加者 今の説明……。

○南山総括調整官 マイク、おっしゃっていた、今のところ。

○参加者 だから、全然説明してないじゃないですか。だから原子力、今ね、私はいろん

なことを言ったんだけど、緊急事態宣言、これがまだ発令したままね、まだ終わっていないんですよ。デブリはどうするんですか。そういうこと一つ一つにあなた方は答えてないでしょうと言っているわけ。それでいかにも撤去しますと、2020年の東京オリンピックまでに撤去しますと言っているわけでしょう。だから、目障りなものを全部撤去しますと言っているわけでしょう。

○南山総括調整官 その2020年という話は、今していませんので。

○参加者 いやいや。

○南山総括調整官 デブリの話とか廃炉の工程等の関係で……。

○参加者 いや、それはね、ここでは言わなくても、そういうことなんですよ、2020年の東京オリンピックまでにはね。

○武山監視情報課長 別に、私どもはオリンピックを別に目指しているわけではないんです、それは。全くそれは誤解されていると思います。

あと、緊急事態宣言は、今まだ解除されていません。それは発令最中です。ただ、我々としては、放射線の状況に応じたモニタリングというものを考えないといけないと思っていますので、低くなっている状況になっていけば、それなりのモニタリングをするということかなと思っていますところでございます。

一応、我々としては……。

○南山総括調整官 ほかの方の御意見等もありますので。

○武山監視情報課長 先ほど言ったように全国レベルのほうに近づいてきていますしね。また0.23という、そのレベルですね、そのレベルにもなってきているということでございますので、我々としては、そのぐらいで大丈夫だろうというふうに思っているところでございます。

あと、廃炉ですけれども、私、廃炉、その見通しですね、なかなか難しいところでございます。これから、デブリの取り出しというのをしますので、まだ、具体的にどうするとは決まっていません。したがって、そこはまだ状況はちょっとわからないというふうに思っています。

○参加者 ありがとうございます。

○南山総括調整官 そういう、決めてからやってほしいと、やるべきだと、こういう御意見だということよろしいですね。

すみません、じゃあ、後ろの方。

○参加者 岳温泉大和に住んでいますサウです。

3.11事故があったときに、私たちは、浪江から避難してくる人のために15日ですかね、大量に避難して、多数来たときに、雪の中で、そういう線量など何も知らず、弁当を運んだり、畳を運んだり、そんなことをやっていたんですね。東京にいる娘から、とにかく早く避難しなさいというふうなことをやんやと言われて、16、17、18と山形のほうにちょっと行ったんですけども、そのとき二本松市役所に、二本松の線量どうだと聞いたら答えがないんですね。次の日に聞いたら、たしか17とか18とか言ったんですね。でも、その記録は正確に載っていないくて、その翌日辺りからの記録が二本松の記録として出ているんですね。ということは、二本松市には線量計がなかったんですね。だから本当のことはわからない。

僕は浪江で最後まで残っていた人たちを、線量計を見せて避難させた木村という先生を知っているんですけども、やっぱり、その人が実際に線量を見せて、これはこうだからということで最終的に浪江から避難させた。ところが、あそこはSPEEDIもあったし、いろいろあったんですよ。だけど実際、住民には知らせなかったということ。防護服着ていろいろ調べている人たちがいると。だけど住民にも何も語られないということで、私たちは、政府が今までやってきたことに対してね、やはり不信感があるというのをまず第1に言いたいと思うんですね。

安定しているという話があったけど、でも、やっぱり想定していなかった事故というふうに皆さんはおっしゃるんだと思うんだけど、でも、それもいろいろと防波堤の問題なんか細部は出ていますけれども、福島県の周りには、茨城の東海のね、福島と同じ原発がありますし、再稼働させるという話になってきていますけど、宮城にも女川にあるし、新潟にも例のがありますね。ということで、もし事故があればね、やはり福島にも、当然私たちにも影響すると。そのときに、かつてのように線量計がなかったと、実際、どの程度の数字のもとで私は生活しているのかと、わからない。だから、全ての日本から原発がなくなるまで、私は、線量計はちゃんと置いてほしいと、私たち福島県の被災民からすれば、二度とこんなことに遭いたくない。政府がきちっと言ってくれればいいけど、そういう信用できない面があったから、やっぱり自分たちの目で確かめて、住民自身が行動できるようにしたい。だから、やはり置いてほしいと思うんですよ。

廃炉のことだってはっきりしない。廃炉までいかななくても、今、使用済みの核燃料もプールに入れて保存しているわけでしょう、保管しているわけですよ。これは、この先、

どこへ行くのかということもあるし、というのは、何だ、青森の六ヶ所のあれもね、稼働する。そういう中でね、やっぱりいつ、どこで何が起こるかわからないと私は思うんです。だから、安定しているからとか、低くなったからとかということで安易に撤去するのはやめてほしいと、引き続き置いてほしいというふうに私は思います。

以上です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

モニタリングポストを、線量計を引き続き置いてほしいというコメントでございます。

○武山監視情報課長 原発があるところ、これは日本全国にあるわけですがけれども、あるんですね、あるわけですがけれども、そこは我々、主に30km圏にモニタリングポストを置いています。もしそこで何かあったときには、それでもって防護措置の判断をして、避難、屋内退避なりに使用するということになっていまして、東海第二もそうですし、女川もそうですけれども、基本、そのモニタリングポストは、その周りに置いているという状況になっているところでございます。

福島についても、先ほど申し上げました可搬型ポスト、監視ポスト、こういったものも置きまして、それでもって何かあったときには対応するということを考えているところでございます。

○南山総括調整官 ほかに御意見等。

すみません、じゃあ後ろから、後ろの方。

○参加者 私は、二本松の安達地区のヤサと申します。

今、その安定線量の関係で話をされているんですが、農家の人たちが現実に、これは7年過ぎても、いまだに山の産業をやっている、例えば春のタケノコ、あるいはアブラコシ、タラノメ、こういう山菜類が出荷できないんですね。あと、自宅でも食べられないと。これは自宅の宅地から20メートルまでは除染しますが、そこから先は全くやられてないと。だから、モニタリングポストのあるところは数字が見えますけど、数字の見えない部分については全く責任がないというのが今の規制庁の判断でないかと思うんですよ。

そういう意味では、少なくとも数字の見える、今の可視化できる部分については残しておいてもらって、私は、東京の衆議院議員会館ではなかったときには、放射線のレベルが0.004ですね。だから、そういう意味では、先ほどの0.23の関係からすれば、とてつもなく線量が低いという状況の中で、福島県内で、今説明がありましたけど、30キロ圏内についてはモニタリングポストを置くと、線量計を置くと。ただし、二本松等については50キロ

圏になっているんですね。そういうところでも、場所によっては、除染作業員にも聞いたんですけど、側溝等で、除染作業をやっても線量が落ちないというような場所があったんですね。そういうようなところとか、あと、山については全く手がついてないと。あるいは、いまだにため池については、除染作業をやられていないという状況の中で、文字どおり責任持つような国の姿勢、あるいは、規制庁の姿勢が、今、問われているのではないかと。そういう意味では、私も、モニタリングポストについては、設置しておくべきだという形で提案しておきたいと思うんです。

以上です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

何か、今の御意見にコメントはありますか。

○武山監視情報課長 二本松市もモニタリングポストを全て撤去するわけではないと考えています。先ほど申しあげましたように、可搬型モニタリングポスト17台と、水準ポスト1台がございますけれども、こちらは残すということで、先ほど説明をさせていただいたことでございます。

山菜とかタケノコ、出荷制限されているということは承知しております。それはモニタリングポストというか、むしろ、結局は、その放射性物質の濃度を測ってみないとわからないところもございますので、必ずしもモニタリングポストでこれがわかるかという、そういうわけではないというふうに考えているところでございますので、そういう検査をしておくということは引き続きやらなきゃいけないことだと思っています。

○南山総括調整官 ほか、前の方、お待たせしました。マイクをお願いします。

○参加者 郭内に住んでいるカウといいます。

私も、事故当時から大変、いろんな不安を持ちながら、いろいろ動いてきたほうですが、一つ端的に伺いたいんですが、私たちは今、原発事故のこの被ばく地の中でね、放射性物質がおりてきた中で、どういうものでもって、これは安全だとか安心だと思っているのか、それをちょっと伺いしたいと思います。私たちがどういうところで思っているのか。やっぱり福島に住んでみないとわからないというのは結構あるんだと思うんですけど、私たちの気持ちに寄り添っているのかどうか、すごく疑問なんですよね。私たちが安全だとか安心だとか思っているのは何だと思えますか。具体的な質問です。

それから、第2点目、先ほどもありましたけれども、私は今、ずっと毎日、原発事故の資料を集めながら、特にあの第一原発の作業状況を注視しているんですけど、非常に危な

いなと思うときが時々あるんですね、状況が。いろいろ、あちこち、私もよく知らない  
のでいろんな方に聞くと、これから先が危ないんじゃないかと言っているんですよ。あの  
デブリ取り出しをやると言っているんですが、デブリ取り出しの仕方によっては臨界が起  
きる可能性がある。もう、デブリ自体は制御されていませんからね。

そういう中で、一体これから先、安全なのかどうかということは非常に疑問だと言う方  
もいるわけですね。私らは、そういうところにいるわけですが、そういうこれからの  
作業、先ほども質問があったんですが、もうちょっと具体的にいくと、これからの作業の  
中で1F、第一原発の作業は安全だと言いつけられるのかどうか、これは、あなた方はリア  
ル線量計を撤去すると言っていますが、ほかの方々との情報共有はしているんですか。  
作業の仕方とか、状況とか、危険度はどのくらいなのかとか、そういう全体的な中で政策  
は進めていただきたいと、ぜひ思うんですが、その作業の状況についてお聞きしたいとい  
うふうに思います。

それから、安定していると言っていますが、これから先も安定することは保証できる  
んですか。あのリアル線量計の数字も始終動いています。もちろん大きくぼーんと上がる  
ことは今のところないので、私も助かっているんですけど、これから先も安定するという  
ことが言えるんですか。一応、そこだけ質問しておきたいと思います。

○南山総括調整官 なかなか難しい御質問もありましたが、原発事故の起きた福島  
の住民としての安全安心のことをどう捉えているのかと、それが1点だったと思います。それ  
から、原発の作業の状況をどのように承知しているのかと。それから、安全なり安定してい  
るということ、今後も、そういったことが保証できるのか、こういった3点ほどの御質問  
だったかと思います。よろしゅうございますか、コメントを。

○武山監視情報課長 住民の方が何を、どういうことになれば安全安心と思うかというこ  
とだと思わすけれども、例えば放射線が、放射線のレベルが低くなっていることが大  
事だと思わすし、原発の不安がないということも大事だと思わすけれども、具体的  
に、じゃあ、どういう数値だったらそうなるのかということについては、これは、やっぱ  
り人それぞれだと思わす。安心というものは人それぞれだと思わすので、なかな  
か、こうだという一つのことで決めることは、多分、難しいだろうなと思わす。

それから、1Fの作業ですね、我々、1Fの作業に関しては、原子力規制事務所ですね、福  
島第一原子力規制事務所のほうで常に常駐なりをして監視をしているわけです。というこ  
とで、その作業、一つ一つの作業ごとに、そういうことで確認をしているというところが

実情でございます。だから、したがって、そういうことをして確認をし続けるということが、我々としては大事だというふうに考えているところでございます。

また、じゃあ、その線量のレベルが安定をずっとするのかということですが、先ほど、御説明の中にもありましたけれども、当然、線量計のレベルはいろいろ振れたりするわけですが、それは自然に振れてしまうのはしょうがないんですけれども、基本、大幅にそれが大きくなるということは、まず、ほとんどないだろうというふうに考えています、今後はですね、というふうに思っているところでございます。

以上です。

○南山総括調整官 すみません、後ろの方。

○参加者 二本松市、東和地区のガノといいます。農業をやっております。

今日の資料の11ページに、除去土壌などの安全管理（運搬）というページの中で、輸送によるさまざまな粉じんや、騒音や、振動、住民の皆様の健康及び生活環境を守りますと、その下に、地域の皆様とその情報を共有しますというふうに書いてあります。今、東和地区に焼却場、環境省が進めている焼却場が今建設されて、来春から稼働するという予定になっています。環境省の説明では、99%煙は安全ですという説明でした。100%ではない。しかも、安達地方、二本松市の8,000Bq以下の汚染土壌、汚染物質を、放射性物質を全部、東和地区に運び込むと。1日10台、20台往復すると、かなりのダンプが通るわけですね。

つまり、東和地区だけではなくて、むしろモニタリングポストを増やす、それが住民の健康と生活環境を守るということではないのかなと思いますが、これから台風や集中豪雨、風向きはどうなるかわかりません。東和地区だけではなくて、二本松全域に影響がないとは言えない、むしろあるという、これからのいろんな、温暖化のことを考えますと、これは減らすどころか、むしろ二本松市はしっかりと、ダンプが通る道路沿いを含め、東和小、こども保育園までは2キロなんですね、直線コースで。このお母さんたちの、後でお母さんも質問しますと思いますが、そういう不安を、このポストを撤去したときにどうなるのかと。まさに、その福島の若いお母さんや我々農業者の立場に立って、現場に来て、まだ私の娘も農業をやっていますが、山際に行くと0.3とか0.5ということはあるんですね。そういう現場を歩いて、現場を規制庁の皆さんも確認して、ぜひ進めていただきたいと思います。どうでしょうか。

○南山総括調整官 何かコメントはございますか。

○武山監視情報課長 今の仮設の焼却場の話なんですけれども、私が環境省から聞いてい

の話ですと、まず、排ガス中の放射性物質の濃度については、連続監視装置をつけて監視をするというふうに聞いています。また、モニタリングポストも、その仮設場に対して複数個配置をするというふうに聞いていますので、それでもって仮設場については監視をするというふうに聞いているところでございます。

○参加者 たしか4カ所ですよ、焼却場の周りに。環境省の説明では。

○武山監視情報課長 モニタリングポストの役目なんですけれども、基本、そこで線量なりが上昇するということになったときに、それでもって措置をするということで、ある意味、その近いところでそれを捉えておけば、住民の皆様にも、そのお知らせをして、適切な措置をするということが可能だというふうに考えているところでございます。

○南山総括調整官 今のところ、排気モニターの役割というのは、ちょっと、あまり詳しく話さなかった。

○武山監視情報課長 先ほどの排ガス中の放射性物質の連続測定監視、これも、だから、ある多分一定のレベルになると警報が鳴って、そうすると、この焼却を止めるとかいうことができるというふうに考えています。

○参加者 問題が起きてからじゃ遅いよ。

○武山監視情報課長 その警報が、多分、そんな問題になるレベルじゃなくて、手前でもって、そのようなセットをするというふうに、それが基本だと思っています。

○南山総括調整官 ほかに、後ろの女性の方。ごめんなさい、後ろのほう。よろしいですか。

○参加者 油井に住んでいますエドワリです。

原発事故から7年と8カ月なんですけれども、まだ原発も収束していないし、あと、空間線量の正確な情報を自分の目で確認できる唯一のものだから撤去しないでほしいとか、最近地震も多く、事故を起こした原発が廃炉になるまでは、何が何でも、何が起こるかわからないので撤去しないでほしいという、リアルタイムの線量測定システムの、議会で二本松は採択されたんですね。それで、私も本当に目に見えないもの、放射線って目に見えないものだから、撤去しないでほしいなという皆さんの要望で議会に出したので、ぜひ撤去しないでほしいと思います。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

では、前の女性の方。どうぞ座ったままで、マイクが参りますので。

どうぞ。



○参加者 二本松市の中の岳下地区というところがありますが、そのイシカワと申します。

こういう規制庁からいつも渡される文章を見ていますと、例えば13ページかな、13ページ、除去土壌などの安全管理と、こういう安全という言葉が必ず入っているんですね。人の健康や生活環境に影響を及ぼさないことを監視します。こういう言葉が文章には必ず入っていますが、私たちは安全と思ってないんですよ。ですから、二本松全体の除去土壌の状態を御覧になったでしょうか。私は、日々見ていまして、いつこれが中間貯蔵施設に運ばれるのだろうか、28年度までにとおっしゃっていましたが、今度は33年度、搬出の見込みということですよ。

私たちは、もう毎日、いつこれが中間貯蔵施設に行くのかなということを待っているんですけども、人の健康や生活環境に影響を及ぼしているわけです。もう孫たちが都会から戻ってこれない。そういう話は、もう毎日聞ける、聞いております。もううちから見えるところに山積みになっている。最近では、そこから草が生えてきたりしていて、もう、これ大丈夫なんだろうかな、放射線は本当に、仮置場の放射線は大丈夫なんだろうかな、何か、もう月に2回モニタリングをやっているというのを書いてあるんですが、私なんかは見たことないですよ。よくそこを通過して、どうなっているのか、もう運ばれたのかなということを見ているんですけども、そういう状況ですので、絶対にこのポストを撤去することには反対です。まだまだ私たちは、不安な毎日を送っています。

ということで、反対です。よろしくをお願いします。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

特にコメントはないですか。

ではほかに、こちらの女性の方。座ったままで、マイクをお願いします。

○参加者 先ほど、東和の件で、こども園の保護者の方たちもというお話がありました。私たちは、東和のこども園の保護者であります。針道から来ました材ツと申します。

まず、最初になんですけども、焼却炉の説明会するときでもそうなんですが、本当に判で押したような回答であったりとか、検討しますというような曖昧な答えが多いんですが、私たちはそういうことを聞きに来たのではないということを、まず御自覚いただきたいなと思います。

私たちが今日出した意見とか質問とか、そういったものがどういうふう to 検討されて、それがどういうふう to 私たち住民に対して戻されるのかということをお聞きしたいと

思います。

それから、先日、9月でしたかね、NHKのこのモニタリングポストに関するレポートの中で、線量計を貸し出すので、面倒くさがらずに借りに来て測ってくださいというような御発言があったんですが、私たちは、面倒くさいから測らないのではなくて、リアルタイム測定システムを残せというのではなくて、誰でもが、ぱっと見て、一目でわかるように、子どもでもわかるように残してくださいと言っているんです。ホームページで公開しようが、手持ちの線量計ではかろうが、持っている人しかわからないですよ。うちの子どもは2年生と年長組なんですけれども、それぞれ必ず、帰ってきたら、今日、保育所は幾つだったよ、学校は幾つだったよということを教えてくれます。子どもたちに、それが根づいてきているんです。子どもたち自身が、自分たちの体を守るために一生懸命考えて行動してくれているんだと思います。そういう癖がせっかくついてきたところに、今のモニタリングポストがなくなってしまう、一目で、誰が見てもわかるものがなくなってしまう、こんなに悲しいことはないと思います。

それから、私の子どもが通っています東和小学校の敷地内の地表なんですけど、地表すれすれのところで、 $4\mu\text{Sv}$ ある場所があります。これは、これをはかったのは去年の春なんですけれども、その段階で $4\mu\text{Sv}$ 。土をはかると78,000Bqを超えていました。そういうところって、たまたま私たちが、たまたま通りかかったときに、測定器を持って通ったときに、たまたまわかった場所なんですけど、そういう場所がいまだにたくさんあるということ、そういうことをちゃんとわかってください。

先日、国連の人権委員会だったか何かで、福島には女性や子どもは帰らないほうがいい、多分、避難地域という意味だとは思いますが、そういう発言がありまして、政府のほうから大変遺憾だという、それこそ遺憾な話があったんですが、なんでそういうことを言われるかという、情報を隠すからじゃないんですか。隠すから、そんなところには帰っちゃいけない。先ほど、オリンピックは関係ないとおっしゃいましたけど、関係ないのであれば、逆に世界の方々に、こうやってモニタリングポストがちゃんとあって、どんな人でも見られるから、だから日本は安全なんだよ、福島は安全なんだよということを、むしろ逆にアピールするべきじゃないですか。

原子力規制庁というのは、その原子力のその危険性とかを規制するものであって、住民側を規制するものではないと私は思います。そういうことを踏まえて、しっかり検討して、私たちにどういう答えが来るかというのを、私は非常に楽しみにしております。本当にこ

れからもっともっと、焼却炉もそうですし、ここの資料の9ページに、がれきの撤去や燃料取り出し作業が行われても、原発敷地内の、その濃度は法令基準以下となっていることを確認と書いてありますけれども、先ほど、燃料の取り出しに関しては、まだわからないというふうにおっしゃいましたよね。別に揚げ足を取るつもりじゃないんです。でも、私たちの本当に言いたいところはここなんです。これから、だから必ず、本当に増やしてほしいと私は強く願っております。よろしくをお願いします。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

この件、どう検討され、どうフィードバックされるのかという辺り、いかがですか。

○武山監視情報課長 まず御意見ですね、これは、まず我々のほうのホームページに全部、議事録として残って、皆さんに見られるようになっているところがまず一つであります。

それから、我々、いただいた意見については、まとめた形で、今度、また原子力規制委員会のほうで、今後、住民説明会をやった後に、3月の方針についてどうするのかということについて、もう1回また議論するつもりでおりますので、そのときのことについては、当然ながらオープンな形で皆さんにお示しすることになると思いますし、それについてどうするかということについては、その委員会でもって議論をさせていただくということになります。

○南山総括調整官 よろしいですか。

では、じゃあ、ごめんなさい、そちらの男性の方。

○参加者 その中で、私は、原瀬地区というところにおりますイシカワといいます。

私は、線量計のあるところに行った場合には、必ず数値を確認することにはしているんですね。今日も2カ所ほど、そういう場所があったので数値を確認してきました。また、夕方のNHKテレビ等で、やっぱり今日の線量、空間線量値ということで放映された場合にも必ず見ております、ずっとね。福島、二本松、郡山と、ええ、この三つを比べて、0.23から下がったなとか、急に0.28になったなとかって、もちろん、高いほうの数値なんですけれども、そういう意味では、今あるモニタリングポストは役に立っているということなんですね、私たちの日々の生活の一部として、明日の天気はどうかと、気温はどうかということと同時に、やっぱり空間線量も日々意識して暮らしているということですね。

だから、あの事故直後にモニタリングポストがなかったために、二本松は、あの当時どのくらい空間放射能があったのかなというのは、全く情報もなかったわけですし、その不安といいますかね、この逃げるかどうか、避難するかどうかとか、どういう防護をしたら

いいかということも全くわからなかったわけですが、その不安というか、これは相当なものだったというふうに思うんですね。

それから、もう一つは、さっき山林除染、それから山菜の話をされましたけど、去年の秋に私たちの地域で、かなり急な山を1町歩、木を切り倒し、山をむいて、重機を入れて、ソーラー発電所をつくる作業があったんですね。その近くの方の話では、去年2,200Bqだったコシアブラの数値が、その作業後3,700になったんだという話がありまして、そういうことをわかって、この作業をやっているのかなということで、作業員にちょっと聞いたことがあったんですね。この原発事故があって放射性物質が山にも積もっているんだよと、そういうところの山を重機を入れて作業しているというのを、あんた方わかってやっているのかいと、こう言ったんですね。そうしたらね、原発事故って何ですかという話なんですね。その現場の作業責任者、40代ぐらいだと思えるんですけどもね。車は長野ナンバーなんですね、長野のほうから来ているという。ここに放射性物質が降ったという事実は知らないのかいと。そうしたら、まあBq、 $\mu$ Svって何ですかというわけなんですね。

だから私は、予想外の話だったもので、頭が真っ白になるというか、胸が潰れるというか、いや、こういうことが日本の中で今あるんだなということがね。私らは、こうやってこういう問題、いろいろ議論していますけれども、本当に日本全体を見た場合に、既に過去のものとしてね、我々のこの受けている被害は忘れ去られているのではないのかなということで、非常に強いショックを受けたんですよ。ですから、安全だということを、今、アピールすることだけでなく、いかに危険なものであったのかと、今なおその被害が、どれだけ深刻に住民を苦しめているかということもね、きちっと、ぜひ日本の国民に説明してほしいなと私は思いますけどね。

以上です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

では、後ろの女性の方、すみません。お座りになって。

○参加者 上川崎のハシグチと申します。

今日の説明会で資料を配っていただきましたけれども、とてもびっくりしているんですね。この赤いリアルタイム線量計ですか、この二本松の中でほとんどなくなってしまっているんですね、この表を見ますと。

○南山総括調整官 何ページですか。見直しの……。

○参加者 ちょっと立たせてください、すみません。12ページを見ますと、ほとんど赤い

のがないですよ。本当にびっくりしているんです。インターネットを見ましたら、18台を除いて99のリアルタイム測定器を見直すということが書いてありました。18は丸がついているのかなと思いましたが、18、もう全くないんですよ。これはどういうことですか。

それとあと、やっぱり説明会というのであれば、どこ、二本松のどこのものをなくすのかという、きちっと書いた表を配ったっていいんじゃないですか。私たち、これだけを見て、どこがなくなるのか、どこが残るのか、全くわからないんですが。非常に雑ですよ。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

○参加者 いや、まだ……。

○南山総括調整官 今の、まず、どこがなくなってどこが残るのか、その18台とおっしゃいましたけれども、この図で、12ページの図ですね。

○参加者 そうです。

○南山総括調整官 これ、赤いのが全部なくなっているじゃないかということですけども。

○参加者 ええ、それが1点ですね。

○南山総括調整官 それについて、まず、どうぞお座りください。

○武山監視情報課長 まず、そうですね、この12ページでは、赤い丸が全部なくなっていて、緑の丸と青い四角、これが残るといふ絵になっています。

○参加者 この18というのは、リアルタイム……。

○武山監視情報課長 18は、先ほどの御説明した、この資料で言うと5ページですね、5ページにまずある可搬型モニタリングポストというこの右側のやつ、これが、まず17台あります。その次のページに、6ページですけども、水準ポストというのが1台あります。これが、一応その18台の内訳になります。

○参加者 そうすると、リアルタイムの測定器というのは1台もなくなるということですか。

○武山監視情報課長 今、そういうふうを考えているところです。

○参加者 リアルタイム測定器の場合は、表示のほうは $\mu$ Svになっていますけれども、こっちのほうはGyになっていますよね、 $\mu$ Gy。そういうことも私たちはよくわからないんですよ。表示のこともわからないし、それと、あと、どこが残って、どこが撤去されるのか、それもわからないんですよ。それで、その説明会と言えるのかしらと思って、まずそれが言いたいんですよ。やっぱり、もっときちんと私たちがわかるような説明会をしていただ

きたいなと思います。

それと、先ほどから、私たち、本当に何が、この前の震災のときも、実際に地震だけでおさまればよかったんですけども、こういうことになってしまったわけですけど、そのとき何が起きているのか全くわからない。測定するものがなかったら何もわからないんですよ。情報がなければわからない。いろんなことがありましたよね、浪江の人たちがそこにとどまって、一緒に被ばくしてしまったということもありました。12日から3日間のモニタリングの状況も全く知らされていなかったということを本で読みました。実際に双葉町には設置されていたんですね。それは原発があるところについては設置されていたということで。そのことによって、そのときの状況の、汚染されたというデータが出てきたそうです、あの本を読みました。そうじゃなければ何もわからなかった。やっぱりモニタリングポストというのはそういう、きちっと私たちに教えていただくということ、教えていただくというか、可視化するというか、見るということが出来るわけですから、やっぱりきちんと設置しておいていただきたいんです。

これから何が起るかわからないということが言われていますよね、自然災害。それから、あと、地震だってこれから、また同じような大きなものが来るんじゃないかということも言われていますよ。いろんなことがこれからあるのに、なんで今、この時期に、まだ7年半ぐらいしかたっていないのに撤去しようということなんですか。住民のことは全く無視じゃないですか。隠蔽するということは、いろいろ考えておられるようですけども、実際に住民を守る、健康を守る、そういう安全ということは、もっと真剣に住民側の立場に立って、きちんと考えていただきたいなと思います。

以上です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

何かコメントはありますか。

○武山監視情報課長 我々も、だから、そのモニタリングポストを全て取るわけではありません。先ほど言った18ですね、これは残すことにしたいと思っていますし、可視化という意味でも、おっしゃるとおり、その可視化は大事だと思っていますので、その可搬型モニタリングポスト、これ、表示がありますので、これでもって見る事ができるというふうに思っています。モニタリングポストの数がこれで十分かどうかというところのいろんな御意見があるのかなというふうに思っております。

○南山総括調整官 ほかに。

じゃあ一番、えんじ色の。

○参加者 私たち、この福島に住んでいるということだけで、ものすごいストレスを毎日感じてきているんですね。今、こういうふうになくなって、よかったなという安堵感もあるんですけども、本当にこの線量マップを見てみると、二本松市が毎年出していますよね、線量マップね。私のところが、ちょうどその中間地点みたいで、測りに来るのね。そうしたら、地面すれすれよりも高いところのほうが高いんですよ。普通は、地面に近いほうが、私はね、除染はみんな土を取るからね、そう思っていたら、そうじゃないのね。測りに来た人に聞いたら、うん、そういうことあるんですって。というのは、周りが全部森なんですよ、私の住んでいるところは。そして、西風というんですか、ものすごい風が、台風よりもすごいような風が時々吹くのね。そうすると、木や土に含まれている線量が、放射線量がバーッと、こう吹いてくるわけですよ。何か、私はそれを納得できますね。

その線量は、放射線量というのは、なくなるわけじゃないわけですから、どこかにたまっているわけ。それで土手とかね、それからたまり水のところとか、いろんなところに行く。私は、やっぱりすごく甘いと思います、放射線量に対する考え方が。というのは、放射線というのは、低ければ低いほどいいと言われていています。だから東京、うちも娘が東京にいるんですけども、0.04ぐらいかな、でも、ここは2倍か3倍あるねって言うてくるんですね、いつも。それがどんどん蓄積されていって、体の中の内臓とか、骨とか、頭とか、そういうところにたまっていって、いずれ発症する人もいます。そういうことを考えたら、やっぱりこの原発の失敗というのかな、人間を大事にしないものだからとつくづく思います。

そして、私たちはモニタリングがあるから安心しているんです。本当に、あの通るときに見ると、これくらいだなとか、それから、その線量マップを必ず見ます、毎年。そこで、私が住んでいるところはこのくらいだなって確認します。そうすると、じゃあ、まあこのところは安心できるなというようなことで、モニタリングポストがなかったら何で判断するんですか。一々、自分が持って行って、ピーピー鳴らしながらはかるんですか。そうしないと安全は確保できないんですか。

ということと、それから、ももう一つ、ホールボディというのがあるんですよ。それはちょっとベクレルだから、ちょっとこの場ではと思うんですけども、でも、今回はかかってみたんです。そうしたら、ほかの人はみんなないのに、私と、夫婦だけで畑やっているんですけども、私はたまにしか行かないんですけども、そこで働いていた服に泥が

ついていたんですね。そうして、その泥を洗濯機でかき回して、ほかの衣料にもくっついたらしくて100Bq以上あったんです。びっくりしちゃって、もう私の周りにはそういうのはないわと思っていたら、結局そうなんです。だから、東京の子が遊びに来て、土を触るの大好きね、畑大好き。畑の中を走り回ったり、ニンジン引っ張ったり大根引っ張ったりして遊んでいるわけですよ。そういう子どもたちが、まさか100Bqあるような土がここにあったのかって。本当にね、がっかりしました。

だから、山の除染と畑とか、まだまだ調べなければいけないところがいっぱいあるのに、なんでそういうところに目が行かずに、取り外すことばかり考えているんですか。私は、これは本当にお金のものと、それから原発って安心だよということを知らせるためにやっているんじゃないかって思います。本当にがっかりです。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

何かコメントはありますか、モニタリングの。

○武山監視情報課長 我々、別にその原発は大丈夫だということを言いたいがためにモニタリングポストを外すというわけではないんですけれども、あくまでも線量が低くなっているからということだけなんです。それで、山の除染は、確かに山は除染されてないので高いところはあると思いますし、ただ、なかなかこの除染するのも難しいと思います。自然に任せるしかないかなというふうに思います。

あとは、先ほどモニタリングポストと、先ほどホールボディカウンターとおっしゃいましたけれども、それは普通、我々もホールボディカウンターとかを受けたりしますけれども、必ず、その放射性物質はあるんですね、僕らも、カリウムのとかもあって。そういうのはあって、まだ4,000とか何千とあってあるんですけれども、先ほど、そのセシウム100 Bqとは出たとそういうことですかね。

○参加者 あそこに置いてある服で……。

○南山総括調整官 すみません、マイクでもう一回お話しいただけますか。

○参加者 次の日にまた来てくださと言われて、今まで着ていた服を脱いで、そこに置いてあった服を着て調べたらゼロだったんですね。だから、やっぱり、その泥のついた服が原因だったというのはわかると思うんですね。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

ほかに意見……、ちょっと待ってください。まだ1回も話していない方。その前の男性の方、すみません。



○参加者 若宮のゴトと申します。

7ページの放射線量の状況というようなことで記載されているわけなんですけど、これを見ると3カ月の平均だと思うんですね。先ほど、安定していて、大きく線量が上がることはないという説明があったんですが、去年だけ、一昨年だけか、浪江で山火事があったんですね。そのときに放射性物質が飛散したというようなことを報道で言っていたわけなんですけれども、先ほどの、今の質問の中でも、山の除染を行うのはなかなか難しいというふうなこともありますし、いつ、どこで何が起こるか分からない。浪江のように、ここで山火事も起こらないと言い切れないわけなんですよね。そういうふうな中で、本当に不安な状況のところを日々続けているわけなので、唯一目で確認できるのが、そういった数字が見えるものが、こういう線量計ですので、やはりそこは、残しておいてほしいなとそういうふうに思います。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

では、前の御婦人の方。

○参加者 原瀬から参りましたオオハシと申します。

まず、ちょっと、そもそものことなんですけれども、この説明会を100名に限定し、しかも申し込み制という何か面倒くさい方法をとっていることについて、その理由を伺いたいと思います。二本松市民って6万人ほどおられますので、その中でたった100人に対してしか説明をしないという、その姿勢がそもそもどうなのかなというところをすごく疑問に感じながら申し込みをしました。このことに関わる人って、もっとたくさん、100人よりはたくさんいると思いますし、そういった多くの方の御意見を聞くという姿勢がそちら側にはないというのは、とても私としても不信感を抱かざるを得ませんでした。

それから、また、さらに思ったのは、私、今、勤めているところがモニタリングポストを設置している、私立幼稚園のすぐ隣の事業所に勤めていますので、毎日、そのモニタリングポストを見ているんですけども、その設置に協力している事業主の方には、この説明会のことはお知らせしたんでしょうかということをお伺いしたいと思います。関係ある方だと思うんですね、そういう方というのは、やはり、そういう方に説明会のことはお知らせしたのかなということは、甚だ疑問に感じました。

ごめんなさい、ちょっと歯の治療中で、しゃべり方がうまくできないんですが、聞き苦しくてごめんなさい。

また、事故前の数値、先ほど0.036というお話が出ましたけれども、事故前の数値にな

ってから初めて、その線量は低くなったというふうに言えるのではないかと思います。そうになってないなら、低くなったというふうにおっしゃらないでいただきたいんですね。放射能汚染って、8ページの分布を見てもおわかりになりますようにまだらになっているんですね。高いところもあれば低いというか、低いといっても高いとは思いますが、うんと高いところと、まずまずというような、まあ我慢して我慢して、このぐらいというような数値のところとばらばらに、まだらに存在しているわけですね。

しかも、その放射性物質、先ほどからもお話が出ていますけれども、放射性物質って、その場にとどまっているのではなくて移動するんですね。ですので、安定しているとか、低くなったというふうにおっしゃいますけれども、それは、この先もずっと、そのままの保証はどこにもなくて、それこそ天候状況や、私が毎日見ているモニタリングポストも、やはり0.07前後を示している日が多いですけれども、それでも0.09になることもありますし、また、0.1になることがあります。毎日、気にして見えていますけれども、そういったちょっと変化もありますので、それを平均してこうだというのは、平均自体には意味がないと思います。ですので、その平均したからこうだということには、全く私のほうでは説得力を感じることができませんでした。

また、これ、もう一つ質問なんですけれども、私、兄弟が6人おりまして、妹や弟が関東のほうにいますが、家族旅行などする際に、福島のほうに行きたいなということを言われることがあります。そういったときに、放射能どう、線量はどうなっているというふうに私のところに電話で聞いてくるんですね。そのときに、やっぱり、もちろん数字としては、この二本松の私のいるところはこのくらいだよという話はして、あとは彼らの判断に任せてはいるんですけれども、やはり、それはモニタリングポストがあるから言えることであって、ないと、やっぱりそういった話もできませんし、また、彼らがいわきのほうに行きたいんだけどなんて言ったときにも、そこかしこにモニタリングポストがあるから、それを見ながら行動すれば、間違いないよと、自分たちが納得いく数値を指しているかどうか見ながら行ってねというふうに案内できるんですけれども。

やはり、よそから来る人や観光客の方なんかは、そういったモニタリングポストを頼りにすることってあると思うんですね。それで、その身近な放射線量を知るために、この携帯型の線量計をお勧めということでしたけれども、彼らは、やはりそういうものを持っていませんので、そういった対応をできませんから、このモニタリングポストというのは非常に大切ですから、ぜひ残していただきたいということと、そういった、その観光客の

方とかのためのことはどのように考えているかというの一つ質問させていただきたいと思  
います。

また、これが最後の質問ですが、話が長くて申し訳ないです。御自身の生活圏が放射能  
汚染されているというふうに想定しても、この同じようなことが、低いから、このモニタ  
リングポストは撤去しますよということが言えるのかどうか。御自身のお住まいのところ  
が、例えば事故前0.036だったとして、今、ここ二本松は0.036の場所の一つもないよう  
なこの状況で、モニタリングポストを撤去しますよと言われて、どうぞと、御自身の生活圏  
がそのような状況だったときに、御自身もそれを容認できるのかどうか、それを最後の質  
問にしたいと思います。

以上です。ありがとうございます。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

まずは、その開催の周知の方法とか、そこら辺の御質問があったかと思います。そこら  
辺はいかがですか。

○武山監視情報課長 100人というのは、これは会場を、どうしても会場はどこかに定め  
ないといけないので、その会場に入るキャパを考えると100人と考えていました。じゃあ、  
その100人で全部かという、少ないじゃないかという話なんですけど、僕らも、だから、  
まずこれ、とりあえず我々としては100人のやつでどのぐらい集まるかということを見て、  
当然それ、いっぱい来て、もうすごい、入り切れないほどいっぱい応募が来たんだとい  
うことになれば、もう一回別のところでやるということは考えられると思います。我々とし  
ては、とりあえず今回は100人、この会場で100人と……。

○参加者 事前申し込み制にしたのはなんでなんですか。

○武山監視情報課長 だって、その会場の制約があるから、どうしてもそれはそうなっ  
ちゃいます。その日、その日にしたところで、入り切れなかったら大変ですから。だから、  
こうやって事前に、まず申し込んでいただくということは大事なことだと思います。

それから、あと事業者というか、設置しているところの場所の人にですね、これは、  
我々の今回のその周知の仕方は、二本松市さんに頼んで、市の広報に載せていただいで  
いると思えます。したがって、いや、市の広報に載せているので、逆に言うと、その全戸配  
布になると思っていますので、皆さん、見られることになりまして、ということで、我々  
としては、そういうふうにはしています。どうしても限られてしまう、我々もマンパワーが  
限られていますので、そんな我々自身が、ほかの、皆さんのおうちにお伺いしてというの

はなかなか難しいので、むしろこういう形で、市の広報紙を活用させていただいたということでございます。

○参加者 だったら、市役所に申し込みの窓口にしてくれればよかったのではないですか。

○武山監視情報課長 これは市のほう、市町村によってはそういうところもありました。そこはいろいろと市の状況、事情もございまして、御相談をした結果として、こちらのほうに直接というふうになりましたということです。これは市町村によっていろいろ、ばらばらです。市のほうに出していただくところもあるかもしれません。

○南山総括調整官 あと、観光客にどういうふうを示す……。

○武山監視情報課長 我々も、モニタリングポストを先ほど言ったように全て取るわけではなくて、ある一定の数は残すというふうに考えていますので、したがって、その観光客の方もそれを見る、もしくは、我々今、ホームページで出していますけれども、ホームページで御覧になるということもありますので、スマートフォンでも見られますので、そういう形で見ていただくということだと思います。気になる方は、そういう形で見ていただければというふうに思っているところでございます。

○南山総括調整官 あと、最後の質問で、生活している、自分自身のところでどうかという趣旨でよろしいんですか。安心できるのかと。

○武山監視情報課長 私、私が住んでいるところが、もし0.23で、放射性物質がないといったところでも、私は、それでも構わないと思っております。

○南山総括調整官 では、後ろから2番目の女性の方。

○参加者 私は、塩沢温泉の不動平の山のほうから来ましたヤダといたします。

私の孫は、震災のときに生まれまして、今、1年生になりました。私たちが生活しているのは4世代ですね、その当時は8人家族でして、友達が山梨にいて、早く、空き家があるから越してこいと言われましたけど、4世代が同居している状況で、まず、そういう状況の中で、とても避難をしていくわけにもいかないし、もうこの場所で泣く泣くでもいなくちゃしょうがないということで、いまだ生活をしております。

私は、もう放射線の本当に知識もなくて、福島原発の学習会をしたときに、1カ月前ですかね、原発の話を聞いて、爆発したらどうするんだろうという質問を誰かがやったら、風下に行ってはだめだから、風上に行ったほうがいいのかね、そういう議論だったんですよ。だから、実際にね、本当に爆発したときは、どうしていいかわからない。誰に相談していいかわからないということで、もう家族中で何が起こったのかわからない状態でした

ね。

私は、まだ水道が通っていません、私のうちは。山水を飲んでいるんですけど、当時、山の水は70Bqでした。それを市役所さんに相談したんですけど、安心して飲んでいいですということでしたね。私は、全くそういう情報は信用していませんから、真っ先にね、アクアクララに切り替えました。5年間アクアクララを飲み続けて、スーパーのただでいただけのお水を汲んで、いまだに生活をしております。

ただ、私たちがいい加減な生活をすると、セシウムの半減期が30年というじゃないですか、今7歳ですよ、孫は。その人たちは、私たちは30年後に、もうこの世にはいないですけど、やっぱり見える場所にモニタリングがあって、子どもたちがそれを見て、将来、私たちはそれを見ることはできません、どういうふうになっているか、福島の現状がどうなっているか。ただ、いつもそうですけど、テレビで見てもね、汚染水が流れたとか、何日か後に報告が行ったとかって、いまだに私は、もう安心はできません。やっぱり福島が率先してモニタリングもきちっとやって、それで私は家の周りを、今年ですね、全部測りました。健康アドバイザーの方に相談したら、ヤダさんのうちはすごく高いですよ、山の中にあるし、落ち葉も落ちてくるんでしょう。だからすごく、子どもたちが遊んでいる場所がすごく高いんです。やっぱり低いとは言えませんねと言われました。

今年は栗の実が豊作だったんですけど、700グラム、800がね、少し持っていったら、これではちゃんとした正確な数字は出ませんということで、またね、殻をむいてですよ、かたい皮をむいて、そのまま食べられるような状態にして、持っていきました、800グラムにして。やっと20Bqです。だから、安心してね、何も食べさせられないんですよ、家の周りのものが。山菜もそうですけど、フキノトウもいつもつくっています。それも1回、1回線量を測って、それで友達に上げているんです。だから、安心してね、何も、水も飲めないし、食べ物もとれない状態です、今は。だから、子どもたちが30年後どうなっているか、私たちはそれを見ることはできませんけど、せめてね、福島県が模範になるようにしてください、安心して住めるように。そうじゃないと、もう私は、ここでは老人、二本松でこういう説明をしたから、これでいいんだみたいなことをやられたんじゃない、とっても困ります。

今回、北海道で地震がありましたけど、泊原発が稼働してなかったから、9時間半、電源が喪失したというじゃないですか。だから、前は本当に原発のこともあまり関心なかったけど、ほかの、北海道で起こって、もしも福島のことがあったら、もう全部ですよ、

東北なんか。本当に風、それこそ風下になるのではね、もう全部、全県。だから、そういう北海道で、どこに地震が来るかわからないじゃないですか。地震なんて予測できるんですか。だから、もう本当に、もう少し福島県が原発の被害に遭ったけど、こういうことをやっているよということを、むしろね、アピールするぐらいにもっと市民に知らせて、もっともっと放射線の学習会とかね、責任を持ってやってほしいです。

以上です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

2回目ですよ。

○参加者 はい。

○南山総括調整官 ちょっとお待ちください。

まだ、じゃあ、こちらの黒いジャンパーの方。

○参加者 針道地区に住んでいます、刈といますけれども。

私は、生物なんかの調査のために、阿武隈山系の山の中を歩いていた者ですが、歩いていて、手持ちの線量計でおとすようなところがまだあるわけですね。

○南山総括調整官 ちょっとマイク近づけていただいて……。

○参加者 それで、今、この会場の人もいろいろ、すごく線量計が高くてびっくりしたという人がたくさんいると思うんですけども、二本松地区で0.02から0.23ぐらいで、もう平均的にも、それで終わっているといいますけど、実際的には、もっともっと高い線量のところがたくさんあるわけですね。そういうところを、私は、なぜ、私たちは知りたいのはそういうことだと思うんですよ。やはり低い、低いと言われる場所ではなくて、本当に、さっきは山の中だから、もうどうしようもないから、半減するのを待つしかないというふうに言いましたけど、じゃあ、その山の中を一体何Bqあるのかということをしちっと市民に教えてほしいと思います。もう、こういう場所があるんだということを、徹底して市民に知らせてほしい。それをしない限りは、私たちには、こういう報告が、本当に下がっているのかどうか信用できないと思うんですね。

ですから、市民の人が、やっぱりここがこんなに高いんですよというのがあった場所を、やはり市できちんと把握をして、それを今度、環境省なり規制委員会で意見吸い上げているのかどうか。今、二本松市で一番高いと思われる場所とか、そういうのは把握しているのでしょうか。ですから線量、このポストで低いというだけでは、私は二本松の人の、福島県の気持ちを納得させてはいけないと思います。やっぱり一番高いところをきちっと話

して、公表して、そういうところが解消して初めて福島県の被ばく地がなくなるというふうに思いますので、ぜひ、その辺をきちんと発表してほしいと思っています。

以上です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

今の御意見に対して何かコメントはありますか。福島の高線量とか。

○武山監視情報課長 先ほど、二本松市さんのほうで放射線量マップですか、それをつくっていますけれども、あれは結構、全市でいろいろとカバーしていると思うんです。あれで、まず一つは高いところがわかると思いますということが一つと、あと、我々、それ以外に航空機モニタリングというのを1年に1回やっています。飛行機で上からとるんですけども、それでもって色分けする形で線量のレベルというのを示していますけど、それでも、ある程度、どこら辺が高いかということがわかるようになっているということは一応御説明させていただければと思います。

○参加者 それは公表しているのでしょうか。

○武山監視情報課長 公表しています。我々のホームページのほうで公表しております。

○南山総括調整官 もし今、画面に出せれば出したいと思っています。ホームページのほうからです。

すみません。女性の方。

○参加者 仮設焼却炉ができる東和の地区から来ましたウマといいます。

今回、この説明会は、私はわからなかったんですね、あるということが。友達が、そういうのが、市政だよりも、二本松の広報に載っていたよというので初めてわかったんです。だから、それを言われなかったら、今日は来られなかったんですね。そして、その申し込み方法なんですけど、ファクスかメールというのも全員ができることではないので、とても圧力を感じたんですね、何か来ないでくれと。すごく面倒くさいことにしておいて、できれば来ないでほしいと、そういうふうな感じを受けたんですね。

そして、原子力規制庁のホームページも後から見ました。そうしたら、そちらのほうには何か、名前も漢字と振り仮名を書いてくれとか、あと、職業と学校名なんかも書けと書いてあったんですね。勤務先を書くように書いてあって、何か、余計に何かすごい圧力、個人情報をはげらかしてまでもあなたは来ますかと言われているような、そんな気がして、何か、すごく来るのに勇気が要るような、そういう申し込み方法だったんですね。できれば、こういうのは来ないほうが楽ですよ。私も、こういうところに息子を、御飯をやっ

と食べさせて、息子を一人で置いてきたんですけども、できればこんなことをしたくないですよ。みんなの前でしゃべりたくもないし、本当、あの原発事故がなければ、こんなことをしなくてよかったんですよ。本当にストレスなんですよ、本当に。

そして原子力をやってきた国、東電側の方が、なぜ私たち被害者に対して、そういう上から目線で、自然に下がるしかないですねとか、そういうふうに言われなくちゃいけないんですか。なんで、この放射能のせいで私たちは苦しんでいるんですか。原発事故があったからなんですよ。国が進めてきたもの、そのせいで私たちは苦しんでいるんですよ。それなのに、なんで私たち住民に寄り添ってくれないんですか。全然寄り添ってないと思います。答えは誠意が感じられないです。学校のモニタリングポストを全部なくすということも、校長先生もみんな知っているんですか。学校の先生はみんな知っているんですか。もし、今の校長先生のとくに、先生が知らないままモニタリングポストがなくなったら、先生は、PTAの方とかから何と言われると思いますか。先生は知らなかったんですかって、全部に知らせるべきだと思うんです。

そして、こういうことは二本松の市民全員にアンケートでも出して、モニタリングポストは要りますか、要りませんか、意見を書いてください、そういうふうにして、ほとんど全員の人が、1人でも欲しいという人がいたら、撤去すべきではないと思うんです。今回どうですか、加害者の方は勝手に決められるんですか。私たち、誰も知らないうちに撤去されるかもしれなかったんですよ、あの広報を見てなかったら。そういうことでいいんですか。

○南山総括調整官 それでは、コメントをどうぞ。

○武山監視情報課長 ちょっと申し込みのほうで、その職業とか勤務先とかが、これは、実はここの、一応市町村ごとにやっていますので、この市町村にお勤めの方とか、通学されている方とか、お住まいの方ということを確認するために、ちょっと、すみませんが情報提供していただければというふうにしたところでございます。

また、学校の先生は、実は、我々、学校長会という集まりがあったところで説明をさせていただいたりとかはしていますので、それを通じて各学校にはお知らせが行っているというふうに聞いているところでございます。

以上でございます。

○参加者 聞いてないです。

○南山総括調整官 すみません、どうぞ。



○参加者 東和からきたコイズミです。

今日の説明会で、これ、12ページのこれ、出ていますけど、これは決定ですか、一つ聞きたいんですけど。ここですと全部……。

○南山総括調整官 これは、12ページのこの見直しは……。

○武山監視情報課長 これは一つの提案ということでございますので、まだ決定はしていません。

○参加者 わかりました。じゃあ、みんなの意見を聞いて決めるということですね。

○武山監視情報課長 そうです。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

ちょっと、まだ1回も発言されてない方で、これだけは話したいという方はいらっしゃいますか。よろしいですか。

じゃあ、お待たせしました。じゃあ、そっちが先か。ごめんなさい、そちらのチェックの方。

○参加者 8時45分までという時間を気にしているんですけども、45分で終わるんですか。

○南山総括調整官 できれば御協力いただきたいと。

○参加者 只見や西郷その他で説明会があったというので、ぜひ二本松でも説明会をやってほしいと私は願っていました。やっぱり私たちの気持ちで、願いをやっぱりきちっと聞いてもらいたいというふうに思ったんです。

なぜ二度目の発言をしたかという、こういう説明会を県内各地でやられたようですけども、圧倒的多数がね、この見直し案に賛成というところはありましたかということをお聞きしたいんですけども。というのは、こういう説明会を開いて、3月に委員会で議論して結論を出すということですけども、こういう提案者である委員会が、委員会で決めて議論するんですから、どの程度この説明会の意味を、重みを受け止めているのかということをととても気にするんですね。私たちの立場、いや、あなたたちは、とにかく安定して低くなっている、だから撤去しても、科学的にと言うかどうかわからないけど安全だということで、住民からいろいろ反対の意見があったけど撤去しますというふうにならないかどうかというのは、今、安倍政権の姿勢がそうですよね。全てのことで民意を無視して、丁寧に説明すると言いながら、一向に丁寧に説明しないというのと重なるんですよね。

ということで、安倍政権とあなたたちと一緒にして申し訳ないけれども、本当に3月に

どういう扱いになるのかということですね。ということで、今まで開いたところで、撤去してもいいというところがあったのかどうなのか、そういう強い意見があったのかどうなのか、それもちょっとお聞きしておきたいと思います。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

では、今の点に関して。

○武山監視情報課長 今まで住民説明会をやった中では、ほとんどの人がやっぱり撤去は反対ということでございました。また、来年、一応3月をめどに、もう一回このことについて、また議論をするというふうに考えていますけれども、ちょっとどうなるかということについては、私は、ちょっと、この場ではわかりません。3月に議論してみないとわからないです。ただ、この御意見は、皆さん、我々は、ずっとほかの市町村も含めて、ずっとやってきて、そういう撤去等は反対だということが大半を占めていたということについては、大変重く受け止めておりますので、ということでございます。

○南山総括調整官 すみません、じゃあ、お待たせしました。

○参加者 ちょっと2回目なんですけれども、この規制庁さんのつくったこの資料、非常にね、プアです。というのは、まず、この撤去の理由がどこにも書いてないわけです。言葉では言っているんだけど、私に聞こえるのは、この放射線が安定しているということ、それから0.23  $\mu$ Sv/hね、これ以下だったら安全だという話なんですね。けども、先ほど、どなたか質問したんですが、安心安全とはどういうものですかと言ったときに、武山課長はどう答えたかという、個人でそれぞれ違いますよと言っているわけですよ。ところが規制庁はね、0.23で撤去しますと言っているわけです。それ、矛盾していませんか。

というのはね、それであれば我々が決めますよ、撤去についてはね。我々が、もう要らないから撤去してくださいといったら撤去してくださいよ。それが結論じゃないんですか。言っている説明が、これ、しかもね、その撤去の理由がどこにも書いてないんだよね。これ、復興庁がなくなる、2020年になくなるから予算がつかなくなるというから撤去したいんだと。それから、先ほどの6億、これがメンテにかかるから撤去したいんだという理由も、ここでは言っていないけども、うすうすそういう理由も聞こえてくるわけね。それをあなた方は隠しているわけですよ。だから、この資料についてもね、普通の真実は全く触れてないわけ。あなた方の都合のいい資料だけつくってね、大体この、何だ、先ほども言ったけど、7ページのこんなデータはね、こういうデータの作り方はないですよ。バラついているんだから、平均で物事を言っちゃだめなんです。それが安心安全ということじゃ

ないんですか。リスク管理というのはそういうものでしょう。平均でやることじゃないでしょう。わかっていますか、あなた方は。

時間もないですから、何かそういうのに、科学的な、先ほど、もう一つありましたね、原発のその現状どうなっているんだと。そうしたらあなたは、何でしたかね、その監視員を派遣して、それで管理していますと、それ、質問の答えになってないでしょう。科学的に、今度のデブリの取り出しとか何かのときに問題ないんですかという質問に対して、あなた方規制庁の委員をそこに派遣しているから問題ありませんと、そんな説明が納得いきますか。誰も納得できませんよ、あなた方の説明に。そう思いませんか。

だから、もう結論は出ているんですよ。先ほども、いろんな自治体で、賛成する自治体はないんです。議会も反対しているんです、撤去について。もう結論出ているんですよ。これ以上あなた方は、時間とあれをつくっても無駄ですよ、こうやって。もう結論は出ているんですから、それを持ち帰って結論を出してくださいよ。撤去は反対です。

以上です。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

時間となっておりますけど、最後に、じゃあ一番後ろの女性の方、すみませんね。

○参加者 二本松、これはインターネットで見たんですけれども、18基のモニタリングポストを除いた学校や幼稚園、保育園等にある99基のリアルタイム測定器の配置を見直し、線量が十分に低く安定している地点から撤去し、避難指示・解除区域市町村へ移設する方針ということを書かれていました。それで、本当に、先ほどから、どういうふうに決めるのかわからない、3月に決めるということをおっしゃっているんですけれども、本当になくすということであれば、学校や幼稚園、保育園などにはぜひとも置いておいてもらいたいんですよ。もしなくすのであれば、なくすという学校なんかでもう1回説明会を開いてくださいよ。ただ、ここで説明会しましたから、これで終わりですということ決定されたら、とてもたまりません、私たちは。

それとも、どこをなくすのか、どこを残すのか、先ほども言いましたけど、返事がないんですが、きちっと出してください。発表してください。よろしいですか。

○南山総括調整官 ありがとうございます。要望としていただきます。

○参加者 出してくださるんですね。

○南山総括調整官 要望としていただきます。

○参加者 要望として、きちっと出してくださいね。

○武山監視情報課長 実際にそういうことになったときには、当然出します。

○参加者 いや、だって、これは……。

○武山監視情報課長 今、この段階では、まず一つは、我々のモニタリングポストについては、やっぱりちょっと御議論があるかもしれませんがけれども、全てホームページで見られるようになっていきます、どこに何があるかが。ということになりますので、それを、ちょっと御覧いただくということをお願いします。

○参加者 それで説明が十分とは言えないですよ。

○南山総括調整官 すみません、お一方だけ、すみません。時間が来ておりますので、最後に短く、よろしく願いいたします。

○参加者 郭内のカーです。

先ほど私も質問しましたが、福島県は、県の人たちは、今どういうところで安心安全で活動していると思うかということなんですが、今、一番私たちが安心して動いている、活動できるのは、やっぱりリアルタイム線量計なんですよ。これは移動する途中、どこでも見られますし、それから、自分の学区内でも見られますからね。これがあるから、今も大丈夫ねと、それから、だんだん低くなっているねということで、我々は安心して生活しているんですね。そういう意味では、これが、すみません、申し訳ないですが、国がとった唯一の福島県民に対する科学的な説明できる機器なんですよ。それ以外はね、全部、時々ごまかされたりしているデータがいっぱいあるんです。この間、海水の汚染水の問題でも、汚染水から放射性物質を取り除いたと説明していたものが、全部取り除けなかったということをやったばかりで、そういう意味では、誰でもよくわかって、みんなが今、生活になじんできていて、安心できる大きな機器が、このリアルタイム線量計だということを、まず頭に入れておいていただきたいと思うんです。

私たちはこれから先、先ほども言いましたけど収束作業、安全にやってほしいと思うんですが、不測の事態が起こるということは当然考えられるんです。だから、そういう場合に、じゃあ、どうなのかというのをすぐにわかるのが、やっぱり線量計なんです。私たち線量計、個々人が持っているのは、全部自前で持っています。ですが、誰でもがわかるのはリアルタイム線量計だし、これはじいちゃん、ばあちゃんでもわかるんですよ。そういう意味では、この機器を取り除いたら、まさに福島県民は怒りますよ。私はそう思います。撤去するのはやっぱり事故の収束作業が終わって、しかも線量レベルが東京や大阪レベルに落ちついたときに、それはそれで我々も考えますよ、なったのねと。そういうところま

できちっと置くというのが、やっぱり福島に対する、国にとってほしい、そういう私たちの要望だということを頭に入れておいていただきたいというふうに思います。

要望ですが、山林の除染、ぜひやってほしいなと思います。これは我々の生活圏だし、産業の基盤でもありますので、ぜひよろしくお願ひしたい。これは、いろんな危機管理、国のほうでお話をしてください。よろしくお願ひします。

○南山総括調整官 ありがとうございます。

時間が若干過ぎてしまいました。また、司会進行の問題もございまして、大変申し訳ございません。

以上をもちまして、本日の住民説明会につきましては終了させていただきます。大変長時間にわたりましてありがとうございました。